

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■137■

2027年のNHK大

河ドラマの主人公が、幕末の英傑・小栗上野介忠順に決まった。小栗は幕府の重役を降り、倉渕権田村にて隠とん生活を始めた直後、裁きもなく40歳の若さで斬首された。その功績を肌で感じるべく、ゆかりの地を訪ねた。

まずは、他県で恐縮だが、小栗が建造に深く関わった、神奈川県「横須賀製鉄所跡」。横須賀は、小生の出身地横浜市の南にある海のまち。1970年代の名曲『港のヨーコ・ヨー』の詩にあるとおり、横浜と横須賀は東京

高崎ゆかり小栗上野介

影の英雄 功績実感

湾西岸で横並ぶ。小生にとつては同郷のような地だ。のちに「造船所」に名を変え、この工場では、造船に用いる鋼鉄部品を

西海岸で引き返した随行・威臨丸と別れ、パナマ経由で東海岸へ。そして大西洋から喜望峯航路で帰国した9カ月間にわたる世界一周の行程で、小栗は多くを学んだ。小栗の菩提寺である東善寺（高崎市）には、小栗が持ち帰った鉄製のネジが所蔵されている。

小栗のすごさは、物事の本質を見抜く眼力と未来を見据える大局観、そして実現までやり抜く根気にあるように思う。渡米から非業の死を遂げるまでのたつた8年ほどで成し遂げた業績には目を

「お祭り男」の小生にとつては大きな幸運。出かける、小栗を顕彰する講演や合奏、かるた会などが催され、多くの小栗ファンが集って功績をたたえていた。

小栗は、造船所のほか、鉄道や総合商社、さらには中央銀行構想すら持っていたそう。この点、来月の本欄で述べたい。

旗本・小栗家は古くから群馬を知り地とした。これを機に、上州人の誇りが一層高まることに期待したい。

一気通貫で製造できた。だから「製鉄所」なのだ。そして、日本初のドライ

「これからは鉄と蒸気の時代。これを制せざれば、国は立たず」と小栗は語ったそう。そして、

小栗の命日を目の前にした5月25日、倉渕で小

宮 将史（みや・まさひこ）

1860年。日米修好通商条約の批准書を持ち、通米使節団の目付け役として、32歳の小栗は、

1865年に幕内の反対を押し切って、フランスの協力のもと、製鉄所の建設を始める。いまから

ちよつど160年前のことだ。

1974年生まれ。神奈川県出身。一橋大経済学修士。2000年日本銀行入行、政策委員会室国会渉外課長などを

種政府施設を實現した。

とだ。



を経て24年7月から現職